

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ		
4.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	4.1.1 洪水を安全に流す取り組み	1.洪水調節施設の整備	洪水調節施設の整備	大滝ダム下流の流下能力状況	ダムの放流量	P45	治水① P1		
		2.河道の整備	河道の整備	河道掘削・樹木伐採状況	堤防の整備状況	堤防の整備箇所・整備延長	P47	治水② P2	
						(堤防整備前後の)流下能力			
						河道掘削の実施箇所・土量、樹木伐採の実施箇所・面積	P47	治水③-1 P3	
							(河道掘削前後の)流下能力、(樹木伐採の実施前後の)流下能力	P47	治水③-2 P4
						狭窄部の対策状況	堰管理者との協議回数 狭窄部対策の実施状況	P47	治水④ P5
							(狭窄部対策前後の)流下能力		
		3.支川対策	支川対策	支川対策の改修状況	橋本川の工事の進捗	橋本川の工事の進捗	P52	治水⑤-1 P6	
						七瀬川の工事の進捗	P52	治水⑤-2 P7	
						支川対策の取り組み内容	P52	治水⑤-3 P8	
4.堤防の安全性の確保	堤防の安全性の確保	堤防強化対策の実施状況	堤防強化対策の実施箇所・実施延長	P53	治水⑥ P9				

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画ページ	説明資料ページ	
4.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	4.1.2 地震・津波対策	1.堤防、堰、樋門等の耐震対策	堤防、堰、樋門等の耐震対策	耐震対策の実施状況	堤防、堰、樋門等の耐震対策の箇所数・対策内容	P54	治水⑦-1 P10	
					電気・通信機器の耐震対策箇所数・対策内容	P54	治水⑦-2 P11	
		2.緊急用河川敷道路	緊急用河川敷道路	緊急用河川敷道路の整備状況	緊急用河川敷道路の整備延長	P54	治水⑧ P12	
					港湾管理者と連携した取り組み内容			
	3.津波対策	津波対策	河川管理施設の対策状況	河川管理施設の補強対策箇所数・補強内容	P55	治水⑨ P13		
				遠隔操作システムの対策箇所数				
	4.東日本大震災の教訓を踏まえた対応	東日本大震災の教訓を踏まえた対応	東日本大震災を踏まえた最新の知見状況	最新の知見の内容を反映した対応内容	P55	治水⑩ P14		
	4.1.3 危機管理対策	1.洪水時の河川情報の収集・提供	洪水時の河川情報の収集・提供	洪水時の河川情報の収集状況	洪水時の河川情報の収集状況	P56	治水⑪ P15	
					光ファイバーネットワークの形成 ・光ファイバーを更に延長し、光ファイバーネットワークを形成することにより、洪水時の河川情報の収集、自治体及び住民への情報提供、河川管理施設の管理など基盤整備を実施  ・光ファイバーネットワークを活用した河川監視カメラ(CCTV)、水位計(水位センサー)等を設置し、洪水時の河川情報を迅速に収集	光ファイバーの整備延長 自治体や住民への情報提供内容 河川管理施設の基盤整備の取り組み内容  CCTV・水位センサーの設置数		
					②(洪水情報の提供) ・洪水時の映像情報、雨量・水位情報、ダム、堰の放流情報をインターネット、TV等を活用し住民や自治体に提供  ・大滝ダム放流連絡会を設立し、関係機関の連絡・協議及びダム放流に関する事項の普及	住民や自治体等への情報提供手法・内容  大滝ダム放流連絡会の取り組み内容	P56	治水⑫ P16
③(防災エキスパートの活用) ・河川管理施設等に関して専門の知識を持つ防災エキスパートを活用し、施設等の被害情報の収集					防災エキスパートの活動回数・内容	P56	治水⑬ P17	
			浸水被害軽減に向けた取り組み状況	自治体と連動した被害最小化への取り組み内容	P56	治水⑭ P18		

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ	
4.1 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	4.1.3 危機管理対策	2.水防活動の円滑化	水防活動の円滑化	災害防止活動拠点の整備状況	拠点整備数、備蓄の種類・数	P57	治水⑮ P19	
		②(非常用備蓄土砂等の確保) ・洪水災害時の迅速な復旧対応に備えるため土砂等を備蓄		備蓄土砂等の確保状況	備蓄の箇所数・土量	P57	治水⑯ P20	
		3.津波発生時の情報の収集・提供	津波発生時の情報の収集・提供	津波発生時の情報の収集・提供状況	警報装置・CCTVの設置数 関係機関と連携した津波情報収集手法・内容 河川利用者等に対する避難啓発の取り組み内容	P58	治水⑰ P21	
4.2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項		1.水循環実態調査	水循環実態調査	水の循環状況	継続的な水循環の実態調査内容	P59	利水① P22	
		2.渇水時の効果的な水運用	渇水時の効果的な水運用	渇水時の水運用状況	平常時から水位、流量、取水状況等を一元的に把握し、河川管理者・利水者等関係者相互で情報共有の体制を構築	平常時の水位、流量、取水量 情報共有できる体制構築への取り組み内容	P59	利水②-1 P23
					・紀の川、貴志川の瀬切れ解消のため、瀬切れの実態調査を実施したうえで水循環特性を踏まえつつ関係機関との調整	瀬切れの実態調査内容 瀬切れを解消するための関係機関との調整回数・内容	P59	利水②-2 P24
		3.日常的な河川情報の提供	日常的な河川情報の提供	河川情報の提供状況	利水者や住民への情報提供手法・内容 記者発表の回数・内容	P60	利水③ P25	
4.適正な水利権許可	適正な水利権許可	水利権の許可状況	利水者の水利用の実態調査内容	P60	利水④ P26			



「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ				
4.3 河川環境に関する 事項	4.3.1 動植物の生息・生育・繁殖 環境	1.河川環境のモニタリング  ・紀の川の特徴的な動植物の生息・生育・繁殖の場となっている汽水域、干潟、ワンド、たまり、瀬、淵、ヨシ原等の自然環境を保全するため、環境モニタリングを実施  ・モニタリング結果から環境への影響を評価・分析し改善策等の検討を実施  ・重要種や貴重種等が確認された場合、詳細な調査を実施  ・河川環境保全モニターや住民から情報を収集し、モニタリング結果等をホームページ等で公表し、住民等が情報収集しやすい環境を整備	河川環境のモニタリング	モニタリングの実施状況	環境調査の実施状況・内容	P61	環境①-1 P27				
					動植物の生息範囲・生息数・生息状況 環境改善策の取り組み内容	P61	環境①-2 P29				
					重要種・貴重種の生息状況	P61	環境①-3 P31				
					河川環境保全モニターや住民からの情報収集内容 住民等への情報発信状況・内容	P61	環境①-4 P33				
	2.干潟の保全	・紀の川河口域にある干潟で、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、タイワンヒライソモドキ等の重要種が確認されており、環境省の重要湿地に指定されていることから干潟環境の保全	干潟の保全	自然環境の保全状況	シオマネキ、ハクセンシオマネキ、タイワンヒライソモドキ等の重要種の生息範囲・生息数・生息状況 底質調査結果 干潟環境保全の取り組み内容	P61	環境② P35				
					3.生物移動の連続性	・本支川間の生物の移動に支障となる箇所移動阻害の実態調査したうえで移動できるように関係機関と連携しつつ落差の解消を実施  ・魚道機能の保全について、河川管理者と堰等の施設管理者が連携しつつ実施	生物移動の連続性	連続性の確保状況	移動阻害の実態調査内容・阻害箇所数 関係機関と連携した落差解消の取り組み内容	P61	環境③ P37
									4.外来種対策	・移入数が増加しており、外来種の侵入による種の多様性の低下、在来種の生息、生育、繁殖環境への影響の懸念から、関係機関・流域住民等と連携して移入回避や駆除を実施	外来種対策
	4.3.2 水環境(水質)	1.紀の川本川	水環境(水質) 紀の川本川	紀の川本川の水質状況	水質事故発生時の迅速な対応(CCTV等による迅速な情報把握、連絡体制及び極力体制の整備)	水質事故発生における連絡及び協力体制の整備内容	P62	環境⑤-1 P39			
					・水質状況の日常的な把握(情報の共有化)		水質調査の項目・回数・結果	P62	環境⑤-2 P40		
					・住民への水質情報の積極的な公表		住民等への水質情報の発信回数	P62	環境⑤-3 P41		
・水質汚濁防止に向けた啓発活動(学校、住民等と連携した水質調査)の実施					水質汚濁防止に向けた啓発活動の回数・取り組み内容		P62	環境⑤-4 P42			
2.和歌山市内河川	・県、市、住民等と連携を図りつつ、水質環境基準が未達成である大門川への導水を水質特性や既存ストックの有効活用等を含む効率的・効果的な方法の検討し、関係機関との調整・協議のうえ実施	水環境(水質) 和歌山市内河川	水質環境基準の達成状況	県、市、住民等と連携した導水の取り組み内容 導水後の水質調査結果	P62	環境⑥ P43					

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ	
4.3 河川環境 に関する 事項	4.3.3 河川景観	・周辺の景観に配慮した材料や工法を検討のう えで河川工事を実施 ・特に景観に係る各種法令等に準拠し、周辺の 景観に配慮	河川景観	紀の川らしい河川景観の保 全状況	景観に配慮した材料や工法の取り組み 内容	P62	環境⑦ P44	
	4.3.4 河川空間の利 用	1.河川空間の適 正な利用	①(迷惑行為の是正) ・水面の適正利用を維持するため、自治体や警 察と協議したうえで啓発看板等の設置 ・迷惑となる行為について、迷惑行為啓発活動実 施計画に基づき対応 ②(不法行為の是正) ・耕作、工作物設置等の行為は関係自治体や警 察等と協議をしながら是正 ・不法係留は和歌山県プレジャーボート等対策検 討会の検討に基づき、県や港湾管理者と連携し て是正	河川空間の適正な利用	水面及び河川区域内におけ る河川空間の利用状況	迷惑行為における啓発の取り組み内容	P62	環境⑧ P45
		2.多くの人が利 用しやすい河川	・利用者数等の利用状況を勘案し、緩勾配の坂 路や手すり付きの階段等のバリアフリー化を進め アクセスの改善	多くの人が利用しやすい 河川	安全・安心して利用できる河 川空間の状況	河川空間の利用者数・バリアフリー化の 実施箇所数	P63	環境⑩ P47
		3.地域にふさわ しい河川整備	・川の通信簿や関係自治体のまちづくりから要望 等を考慮しながら、住民、自治体と連携を図りつ つ、良好な河川空間の保全・整備 ・水辺の整備において関係機関と連携し、護岸等 の環境整備を実施	地域にふさわしい河川整 備	地域に見合った河川空間の 状況	住民、自治体と連携した河川空間の保 全、整備の取り組み内容 環境整備の実施状況・実施内容	P63	環境⑪ P48
	4.3.5 河川工事に対 する配慮	・環境への影響に配慮した河川工事を実施 ・大規模な河道改変を伴う事業については、事業 実施前の環境調査を実施し、施工形状、時期、 工法等の工夫により影響の回避・低減を図り環 境を保全 ・整備後は動植物への影響把握のため、河道の 平面横断形状や動植物の生息、生育、繁殖状況 のモニタリングを実施し、環境への影響を評価、 分析し改善策等の検討	河川工事に対する配慮	河川工事における環境保全 対策状況	環境保全対策の実施内容・実施延長 環境調査の実施状況・実施内容 環境改善策の取り組み内容	P64	環境⑫ P49	
	4.3.6 環境学習	・紀の川の自然環境や水辺を利用した子供たち の総合学習等を支援 ・紀の川流域に関わる様々な文献情報の収集を 行い、水ときらめき紀の川館を活用し、広く一般 住民に情報提供 ・紀の川の出前講座等を学識経験者等の協力を 得ながら実施	環境学習	環境学習等の支援状況	環境学習等の実施回数・内容 水ときらめき紀の川館の利用者数 出前講座の実施回数	P64	環境⑬ P50	
	4.3.7 流域の森林保 全	・関係自治体、住民をはじめとする多様な主体が 行う森林保全に向けた取り組み等と連携を図り つつ、森林保全を啓発	流域の森林保全	森林の保全状況	関係機関と連携した取り組み内容 森林保全の啓発協力の回数・内容	P64	環境⑭ P51	

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画ページ	説明資料ページ
4.3 河川環境に関する事項	4.3.8 地域住民との連携	1.住民と連携した維持管理の実施	地域住民等との連携	地域住民等との連携状況	住民等と協働した維持管理の取り組み内容	P64	環境⑮ P52
		2.地域住民や住民団体の情報連携体制づくり			地域住民や住民団体の連携状況	河川愛護モニターの活動回数・内容 情報連携体制の取り組み内容	P64
4.4 維持管理に関する事項	4.4.1 河川管理施設等の機能維持	1.堤防、護岸等の維持管理	堤防、護岸等の維持管理	堤防・護岸等の河川管理施設の維持管理状況	堤防目視点検結果	P65	管理① P54
		②(除草)			除草の実施回数		
		①(堤防・護岸) ・堤防天端及び堤防法面の損傷は重大な被災の原因となることから補修 また、必要に応じて堤防天端の舗装を実施  ・護岸の老朽化による損傷や河岸の洗掘について、状態を把握し、堤防への影響等を考慮し洗掘対策等を実施			堤防及び護岸の補修箇所数・延長		
		②(除草) ・堤防強度を保持し、侵食や法崩れ等の発生を防止のため、草丈が高く根が深い有害な雑草等が定着しないよう除草を実施  ・リサイクル及びコスト縮減の観点から、廃棄物やリサイクルに係る関係法令等に留意しつつ、地域住民・NPO・市民団体等との協働等により処分を実施			住民・NPO・市民団体等と協働したリサイクル及びコスト縮減の取り組み内容		
		2.樋門・樋管等の河川管理施設の維持管理	樋門・樋管等の河川管理施設の維持管理	樋門・樋管等の河川管理施設の維持管理状況	樋門・樋管の点検箇所数・点検回数・点検内容	P66	管理③ P56
		①(樋門・樋管等の維持管理) ・施設の信頼性の確保と機能保持が図れるように塗装や機械の分解修理等の定期的な点検・整備より状態を評価し、維持修繕を実施 なお、補修コストを勘案し、補修・補強・更新・改築等を検討し、効率的・機能的な施設の機能の保全			各施設のコストを勘案した機能保全の内容		
		②(樋門・樋管等の施設操作の確実性の向上) ・観測設備やCCTV及び光ファイバーを整備することにより、操作状況の確認及び異常箇所の早期発見			CCTVの設置箇所数・光ファイバーの整備延長		
		・樋門・樋管等の運転支援システムの導入			運転支援システムの導入の取り組み内容		
		・突発的な事故等により、手動操作や機側操作が必要となる場合のため、必要な体制の確保を図り、操作員の技術の維持			操作員の技術向上の取り組み回数・内容	P66	管理④-3 P59
		・貴志川について、操作頻度の高い樋門の遠隔操作化を整備			貴志川における樋門の遠隔操作化の整備数	P67	管理④-4 P60



「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ
4.4 維持管理 に関する 事項	4.4.1 河川管理施設 等の機能維持	3.許可工作物	許可工作物	許可工作物の維持管理状況	施設管理者に対して指導回数・内容	P70	管理⑤ P61
	4.4.2 河川区域の管 理	1.河道内土砂	河道内土砂	河川区域内の土砂堆積・洗掘状況	定期横断測量の断面変化量 河道掘削の実施箇所・土量 河川巡視結果 河床低下、洗掘対策の取り組み内容	P72	管理⑥ P62
		2.河道内樹木	河道内樹木	河川区域内の樹木繁茂状況	樹木伐開範囲・伐開量 リサイクル及びコスト縮減による地域や関係機関の有効利用の取り組み内容	P72	管理⑦ P63
		3.塵芥等	塵芥等	河川区域内の塵芥処理状況	塵芥の処分量 地域住民や住民団体が行う美化・清掃活動の取り組み内容	P72	管理⑧ P64
				河川区域内の不法投棄状況	夜間・休日の河川巡視の回数 市民団体・警察等と連携した巡視の回数	P73	管理⑨ P65
4.4.3 ダム、堰の管 理	1.流水・施設管 理	流水・施設管理	ダム、堰の流水及び施設管理状況	巡視・点検の実施状況 放流量・排水量・放流量と河川流量の状況 既存ダムとの連携による低水管理の方法の取り組み内容	P74	管理⑩ P66	

「点検項目と観点及び指標の関係」

整備計画の目次		主な事業	点検項目	観点	指標	整備計画 ページ	説明資料 ページ	
4.4 維持管理 に関する 事項	4.4.3 ダム、堰の管 理	2.放流警報、情 報提供	大滝ダム、紀の川大堰について、放流前にパト ロール、サイレン、電光表示板等で河川利用者に 注意を呼びかけ、関係自治体・警察・消防等に放 流情報を提供	放流警報、情報提供	放流情報の提供状況	放流情報の提供における取り組み内容	P74	管理⑪ P67
		3.貯水池管理	①(水質監視) ・大滝ダム、紀の川大堰において、連続的な水 温・濁水等の水質調査や定期的な水質調査を実 施 ・大滝ダムは選択取水設備の適正な運用を図 り、下流へ放流するために適した温度の水をダム 湖から選択取水するとともに、洪水時には速やか に放出する。	貯水池管理	貯水池の維持管理状況	水質調査の内容・結果 選択取水設備の運用状況	P74	管理⑫ P68
			②(流木対策) ・大滝ダムの貯水池の網場により、流木の集積・ 撤去の実施 ・集積した流木の有効活用			流木の撤去率(量) 流木の有効活用の取り組み内容	P75	管理⑬ P69
			③(貯水池の適切な維持管理) ・大滝ダム、紀の川大堰の日常的な巡視・点検の 実施 ・定期的な測量による貯水池内の堆積土砂等の 監視及び維持管理を実施			巡視・点検の実施状況 土砂堆積率	P75	管理⑭ P70
		4.環境整備	・「水源地ビジョン」等の制度を活用しつつ、ダム を活用した自立的・持続的な活性化や流域内の 連携と交流によるバランスの取れた流域圏の発 展を図るためソフト対策を実施 ・湖面活用や周辺環境整備等のハード対策を実 施	環境整備	水源地域の整備状況	流域内の連携・交流の取り組み内容 湖面の活用状況	P75	管理⑮ P71
5.環境調査	・大滝ダム及び貯水池運用に伴う紀の川の環境 変化をモニタリングし、河川環境に対する影響を 少しでも軽減するダムの運用方法を検討 ・短期的に暫定運用実施における吉野川の生態 系に及ぼす影響を調査し、長期的にはダム下流 環境の変化を調査することによってダムの本格 運用後との比較ができるように整理	環境調査	ダムの環境状況	環境調査の実施状況・内容	P75	管理⑯ P72		